

アイデア 共創型景観まちづくりで、人とまちを健幸に！

タイトル：地域の人々が、訪問者の視点で、訪れて歩いて廻りたくなる街並みを考えるためのアイデア

By Team Code for Kusatsu 景観部



地域の活動からの景観づくり 事例



集町、遊々鯉のぼり大会

休耕地利用からの景観づくり 事例



南山田町の休耕田に咲く向日葵

遊歩道の水質保全活動からの景観づくり 事例

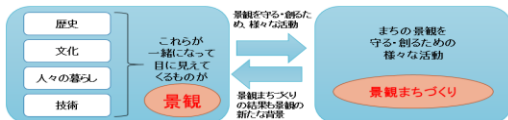


伯母川ビオ・パークと地域住民活動

「くさつ景観計画」より

課題

訪れて、歩いて巡りたくなる美しい街並みのある景観まちづくりは、市民が主体的に、固有の歴史や文化に関心を持ち、地域に誇りをもつことで、来訪者の視線に立ち、保全・活用されることが広がり市民共有の良好な資産として増やしていくことを目指している。一方で人口減少する将来でも、【誰もが歩いて快適に暮らせるずっと続くやさしく健幸なまち・草津】を理念とした持続可能なまちづくりを目指した計画を市で策定しているが、それら施策について説明会を開催しても、参加者は少なく市民の間で「景観まちづくり」について、大きなひろがりとなっていないことが課題である。



訪れて、歩いて巡りたくなる美しい景観や街並の地域をつくるには、「地域の小さなさざ波のような活動を発掘・支援し、様々な人がつながりを新しく生み出す仕組み（社会的サービス）」が必要

⇒ この社会的サービスに必要な機能とアイデアを整理した。

プロセスの確認 ～活動発掘・評価する仕掛け～

- ・地域をよくする活動やその課題について語り合うワークショップ
- ・立体的に地域をとらえるための模型づくりによるワークショップ
- ・活動に至っていない人の潜在的な思いを顕在化するための取組み
- ・他薦・自薦を問わず優れた景観により思い入れのある写真を持ち寄る、地域の歴史や文化を知りながらまち歩きを行うなど、交流と地域資源の発掘を行う。
- ・自分の住んでいる地域を立体的にとらえるための地図づくりや、気になる小さな活動や人為的営みの成果の収集
例：OSM（オープンストリートマップ）を使った地図づくり

継続の重要プロセス ～活動継続・創出する仕掛け～

- ・まちづくりに関する対話型セミナーの開催
- ・アプリを利用した広報の検討

実現に向けた目標 ～活動に参加する仕掛け～

- ・多様な活動への参加の方法をつくる。

運用性の課題 ～地域を評価する仕掛け～

- ・住みやすさに関する調査
- ・市民意識調査におけるさざ波のような活動がどのように影響しているかの検証、またその継続性に関する評価を行い、改善を図る。

アイデアを考える前に...

「市民意識調査」により自分たちの地域は、利便性は良いが、愛着や誇りを持つ人が少ないことがわかり、「市民調査に基づく『住みやすさ』に関する調査研究」においては、多種多様な市民が愛着を持っている場所や活動を見える化し、接する機会・理解する機会を積極的に提供していくことが提言されている。

⇒ そこで解決アイデア検討に先立ち、景観や街並みについて次のように定義した。「景観や街並は、なんらかの設計図を作り、それに向けて自然の風景や建築物を配置して作られるのではなく、そこに暮らす人々の日々の生活やさざ波のような小さな活動（個人の思い出や愛着のある場所で、ごみ拾いや花を植えるなど）の積み重ねにより自ずと作られる。このプロセスにより、様々な人と人のつながりが生まれ、地域の人々が生活をする場所に対する愛着や誇りを持ち、住みやすい街がつけられ続ける。」

アイデアをサポートする根拠①

…立命館大学 山口先生へのインタビュー

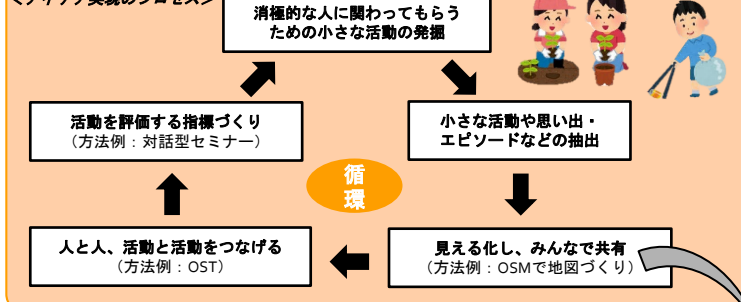
「景観には、生活時間や地域による人の様々な営みが反映されていて、積極的な人も消極的な人も何かしら関わっているから、その背景も大切にみ取り、何気ない小さな活動について愛着があればこんなことをするだろう、と仮説を立てて検討してみては？」

アイデアをサポートする根拠②

…UDCBK周辺でのまちづくり活動ヒアリング

「南草津駅前周辺で、住民も来訪者も快適に過ごしてほしい思いから、日曜早朝に数名程度で清掃をしている。ごみを無くす達成感と仲間とのつながりが人生を豊かにしているが、メンバーが固定なので、もっと多くの方に関わってもらいたい。」

<アイデア実現のプロセス>



※OST（オープンスペーステクノロジー）…主催者ではなく、参加者が自らテーマを決めて対話をする、新しいことを生み出すときによく使われるワークショップの手法。

